愛光NEWS
2024年6月

２０２４（令和６）年７月３１日発行
（編集）愛光本部
（TEL）０４３－４８４－６３９１
（HP）https://www.rc-aikoh.or.jp/

梅雨が明け、本格的に暑い日がつづいています。
この時期、八街で西瓜を作っている方から、毎年、法人に西瓜をいただいています。
先日も、収穫されたばかりの沢山の西瓜を、みんなで美味しくいただきました。
夏にしか味わえないことを楽しみながら、熱中症にも十分気をつけ、この夏を乗り越えていきましょう。

□事業経過など（2024.6.1～）

3	月	本部実績会議/スタッフ会議
4	火	業務執行会議/秋まつり実行委員会
5	水	地域食堂委員会/コ・ヒューマントレーニング
6	木	メンター委員会/ともいきプロジェクト
7	金	70 周年 WT/職場改善委員会/ファミリーフェスタ実行委員会
8	土	理事会
9	日	光和会のど自慢大会
11	火	夜間想定防災訓練/感染症・衛生委員会
12	水	子育て WT
13	木	広報委員会
17	月	佐倉圏域実績会議
19	水	地域食堂ともいき/栄養改善委員会
20	木	財務 PT
21	金	ボランティア委員会
22	土	山王ミライプロジェクト
23	日	評議員会
25	火	コンプライアンス委員会
26	水	地域福祉事業部実績会議・障害者支援事業部実績会議
27	木	高齢者福祉事業部実績会議/はちす苑経営改善 PT/灯台運営委員会

■月報から

□ホーム別懇談会（ルミエール）

１６日の家族会でホーム別懇談会を行った。3ホーム異なる場所でホームごとの家族と職員での懇談になるが、以前と比べてご家族が利用者の将来を強く心配していることが感じられた。以前は利用者の生活についての不満や施設、職員に対する質問をする時間と考えていたが、今回は「親亡きあと」を実感する家族からの気持ちが多かったように感じる。施設からは後見人のことを話題に出し、家族間でも後見人の引き継ぎ、代替わり、第三者後見人への移行等意見交換を重ねた。今回はなかったが、家族会の場に司法書士等第三者後見人が出席することにより家族からの質問に答えてくださることが家族には大きなメリットであり施設側も助かっている。これからも利用者の権利、意思決定支援の助けになる後見人選定を進めていきたい。

（ルミエール課長　原　宏之）

□もしも夜に災害が起きてしまったら（めいわ）

佐倉事業所では年 3 回、施設間合同の避難訓練を実施している。6 月 11 日、今年度初回の訓練として、夜間にめいわ 2 階の食堂で火災発生を想定した訓練を実施した。利用者が居室で寝ている時間の 23 時に 2 階の食堂コンセントから出火。初期消火は失敗。他施設職員の協力を得て、火元に近い居室の利用者からベランダを通り、めいわの全利用者を隣の施設リホープへ避難させる。これが訓練のシナリオである。めいわの夜勤者は 3 人、他施設と管理宿直者からの応援が 4 人、わずか 7 人の職員で、56 人の利用者を普段歩くことのないベランダを通ってシナリオ通りに避難させるというのは非常に困難なことである。圧倒的に少ない人員になってしまう夜間体制で起こる災害が一番怖い。

訓練開始直後、非常ベルが鳴らないトラブルが発生しスタートで躓くが、参加した職員の懸命な避難活動のおかげで、全利用者を無事にリホープへ避難させることができた。しかしながら、上手くいかなかったこともある。「火元職員から応援職員への指示が上手くいかず、何をしたらよいか、誰をどのように誘導したらよいか分からなかった。職員間の声掛けが少なかった。」…などの意見が反省として挙がった。特に夜間想定訓練では何度も挙がってしまう意見であるが、少ない人員でどのように連携をとり、役割を分担するのか、今回もその難しさを痛感した訓練となった。

（めいわ課長　中田　憲一郎）

□過去最高の納品額（根郷通所センター）

酒々井パーキングエリアの納品額（売上）が過去一番となった。値上げした多肉植物の寄せ植えは低迷していたが陶器そのものの売り上げが伸びた。

具体的には「猫の箸置き（特に金彩（光沢のある黒））」や「富士山の箸置き」の売行きが良かった。また、おにぎり皿のラッピングを工夫したことにより、こちらも数が出ている。売上を伸ばすため多肉植物の寄せ植えの値下げも検討したが、売上と利用者のやりがいのバランスを考慮した結果、当面は現状のままが良いだろうとの判断に至った。引き続き、新たな商品開発やラッピングに力を入れつつ売上等を伸ばしていくこととする。

（めいわ通所部所長　菊地　暁生）

□光和会のど自慢大会　（リホープ）

9 日　のど自慢大会に利用者 9 名が参加した。何度も出場経験のある利用者、初めての利用者などそれぞれだったが、前の週にはカラオケクラブで練習し、万全の状態で大会に臨んだ。マラカスを持ち、「応援頑張るぞ」と意気込む利用者 13 名も一緒に参加して、大会を盛り上げた。昨年入所して初めて参加した利用者は「リンゴ追分」を熱唱し、最優秀賞を受賞。涙を流して喜ぶ姿に応援団も大きな拍手を送った。光和会賞を受賞した利用者は「名前のない空を見上げて」を熱唱。名前を呼ばれた時には飛び上がって喜んだ。残念ながら賞には届かなかった利用者も気持ち良く歌うことができたと皆、笑顔だった。審査員を務めた利用者は「最優秀賞を受賞した N さんは、音程が安定していて素晴らしかった。自分も歌いたくなりました」と来年に向けて気持ちを新たにしていた。

（リホープ課長　稲垣　直子）

□印旛圏域グループホーム等連絡協議会（山王の家）

21 日に令和 6 年度の総会と設置者会、26 日グループごとの世話人会議が実施され参加した。昨年までは新型コロナ感染症の影響でオンライン開催が多く、顔を合わせての開催は久しぶりとの事だった。

〔総会〕8 月ごろまでに開設を考えているホームページの活用、更新、管理について、意見が挙げられた。

〔設置者会〕 今年度は努力義務とされた地域連携推進会議の実施について議題に挙がった。まだ思案している所が殆どであった。周囲のホームと日程調整し、障害福祉課の職員を巻き込んでお互いが推進委員として行ってみてはどうかという意見も出ていた。

〔世話人会議〕 金銭管理と同行援護を取り上げてグループ毎に話し合いを行った。世話人とともに参加したが、どのホームも同じような事で支援に苦慮しているようだ。これまでは利用者自身や家族が行えていた事が高齢になって出来なくなってしまった、誰がやるのか、外出等希望が上がった時にどのサービスを使うのか等、身近な事柄だったので興味深く聞くことが出来た。

（山王の家管理者　岡本　綾子）

□精神保健福祉法改正を受けて（ワークショップかぶらぎ）

改正精神保健福祉法が 2024 年 4 月に施行を迎えた。現在、各所でその理解と浸透に向けた研修が行われている。大きな改正ポイントとしては以下の通りである。

・対象の拡大（「精神保健に課題を抱える者」という表現が加わった）
・医療保護入院の要件見直し
・入院者訪問支援事業の創設
・虐待防止の取組強化（病院職員による虐待に関する通報の義務化）
・市町村同意入院の要件見直し

全体を通して「入院期間の短期化」、「退院に向けたサポートの充実」、「患者の権利擁護」といった動きを推し進める流れが表現されている。私としては、細かな点だが法の文言の中で患者への『指

導』という言葉が『助言、その他の援助』に置き換わっている点をポイントに挙げておきたい。使う言葉を変えることで、現実とのギャップを浮き彫りにし、そのギャップを埋めようとする中で中身が後から整っていく。障害福祉分野に長年携わった人間であれば同じような流れを経験しているはずである。医療分野にもその変化が起きることを願う。

（ワークショップかぶらぎ主任　宮部　和樹）

□皆の嬉しい笑顔（よもぎの園）

28 日(金)におやつ会を開催し、併せて年度末賞与の支給があった。おやつ会ではオリジナルパフェを作ったがプリンとカラメルは職員の手作りで、透明な容器にプリン、シフォンケーキ、ホイップ、フルーツ等、彩りを考えながら盛りつけた。試作を作り始めた時にはボリュームが少ないかな？と思ったものの、結果的には“よもぎサイズ(BIG サイズ)”に落ち着いた。利用者と共に作れればもっと良かったが皆美味しそうに食べてくれていた。「〇〇さんが作ったんだ～」などの会話も弾み、手作りの良さがそこにはあった。

おやつ会の後半は待ちに待った“年度末賞与”を一人ひとりに手渡した。支給額も中々な金額であり、一年間の頑張りが形になった時間である。賞与は「年末賞与、年度末賞与」の 2 回ある。月々の工賃とは別の支給となるので皆もとても楽しみにしている。賞与を沢山支払うためにも売り上げ増は必要である。この笑顔を見るためにも職員・利用者共にまた一年を頑張っていこうと決意を新たにした。

（佐倉市よもぎの園主任　近藤　真一）

□誰もが安心できる環境を（かけはし）

かけはしがスタートして早 6 ヵ月が経過しました。管理者 1 名と相談員 1 名の事業所なので事務所は良い意味で荷物も少なく整理整頓がされています。シンプルが故に殺風景であり人によっては地味で暗い印象を持つ方もいるかもしれません。

そんな地味な事務所に相談に訪れる方は成人された方ばかりではなく、幼児・児童も含まれる(もちろん親同伴)。発達障害の早期発見・早期支援を充実させるために、乳幼児健診、幼稚園、保育所、言葉の教室などの判断で「ちょっと発達・発育遅いかも」の段階で相談に繋がるケースは多いです。

「障害があるかもしれない」と不安を抱えて相談に訪れる親と知らない場所に連れて来られて不安なお子さん。そして殺風景な事務所・・・・当然お子さんは高確率で愚図りだし泣きます。とてもゆっくり相談を・・・という雰囲気にはなりません。そのような状況で大活躍してくれたのが絵本やおもちゃでした。職員の家の押入れの奥に長く眠っていた絵本やおもちゃ達ですが、お子さん達は夢中で遊んでくれて親御さんも安心して相談することができるようになりました。安心して相談できる環境作りに今後も取り組んでいきたいと思います。

（佐倉市よもぎの園管理者　戸室　輝大）

□嚥下困難食の取り組み　（はちす苑）

咀嚼が十分でない方など摂食嚥下障害がある利用者でも形があり、見た目から『 美味しそう！食べてみよう！』と思ってもらえるように試作を重ねてきた。

『滑らかミートローフ』の材料の合いびき肉もそれほどジューシーな和牛ではないため、ｾﾞﾗﾁﾝを水にふやかして保水性を高めた。さらに刻み食にやまいものすりおろしを加えて口当たりを良くした。

歯が欠損している刻み食でも見た目はキレイに仕上げて食欲をそそられるようにした。

栄養改善会議で代表者の方に試食してもらい、舌と上あご（軟口蓋）でつぶして歯がない状態でも食べられることを確認した。

また、飲み込みに障害がある方のソフト食はミキサーにかけて凝固剤でプリン状態にしたものを提供している。

（はちす苑　管理栄養士　江口　貴子）

□山王小学校認知症サポーター養成講座　（南部地域包括支援センター）

２６日（水）山王小学校４，５年生を対象に認知症サポーター養成講座を開催した。５年生は昨年４年生の時にも受講しており、内容を覚えていた子も多かった。今回初めてチームオレンジの千葉さんと認知症当事者とのかかわり方について、悪い例・良い例の寸劇を行った。悪い例を見た後グループで考える時間を設け、気付いたことを挙げてもらった。子ども達からは「家族が認知症って分かってないんじゃないの？」「怒らないで優しくしないと」「おじいちゃんがかわいそうだった」などの意見が上がった。よりリアルな場面を寸劇で見てもらうことで、理解を深めることにつながった。

養成講座修了後に、子ども達から感想が送られてきた。一部抜粋して紹介する。

「認知症は新しいことを忘れて、むかしの記憶を覚えていることにおどろいた」

「おばあちゃんが認知症になってもやさしくしてあげたい」

「認知症は病気で、本人は不安を感じていることがわかった」

「きおくのつぼが年をとると変わっていくことがよく分かった」

「劇を見て、日にちを忘れたり家族の顔も忘れたりしまうことがあることが分かった」等

今後もこども達に分かりやすく興味が持てるよう、毎年恒例の講座として考えていきたい。

※チームオレンジとは養成講座修了者で、さらに知識を深めるステップアップ講座を受講した認知症サポーターがチームを組み、認知症当事者や家族に対する支援を行う取り組みです。

（南部地域包括支援センター管理者　森　由美子）

□ふれあいサロン南部　（南部地域福祉センター）

６月７日（金）当センターの事業「ふれあいサロン南部」に、佐倉市内のボランティア団体「グループひつじ」が出演者として来所、センターA 棟大広間にて歌謡曲に合わせたダンスやハワイアンダンスを披露してもらった。普段は定期的に根郷地区にて集まり、練習しているとのことであった。なかでも、「グループひつじ」のメンバーのリーダーのダンスは、歌謡曲からハワイアンダンスまで、とても素敵なダンスを披露されていた。身近な地域で、このようなグループの方が、みんなに元気を与えてくれることはとてもありがたく、貴重な存在であると感じた。

（南部地域福祉センター　青山　秀人）

□千葉県民の日　（佐倉市南部児童センター）

「千葉県民の日」は毎年恒例のイベントを開催している。今年もあそびコーナーを展開し、多くの家族連れや子どもたちで賑わいを見せた。中でも初めて試みた「くもの巣脱出チャレンジ」は、大好評！これは一定区間に張り巡らされたテープを切らないように10秒でゴールしたら成功！というルールである。初めはみんな「何これ？」と言いながら不思議そうにやっていたが、どうもこのあそびは中毒性があるらしく・・・何度も何度も繰り返しチャレンジする子が続出！たちまち行列になった。ゴール寸前でタイムオーバーになると、泣きそうな表情をしながらも、再チャレンジする子どもたち。気付くと、見ている周りも思わず真剣に応援していた。インストラクターも子どもの横で伴走しながら「はい飛んで、次は潜って、そこは一気に！」と、かける声にも力が入った。頑張って成功すると本人も周りの子どもたちも大喜び！ハイタッチで健闘をたたえる場面が何度もあった。「たかがあそび、されどあそび」。あそびを通じて学ぶことが沢山あるのだと改めて感じた。

（南部児童センターインストラクター　吉田　知加子）

□清々しさでいっぱい　（学童保育所）

和田学童は公民館内にあるため、壁面スペースがごく限られている。日に日に蒸し暑くなってきており、夏を先取りして楽しみたい気持ちから、黒と水色の模造紙をそれぞれ貼り、子ども達に夏らしい壁面作りを提案した。

どのようなものにするか子ども達と話し合う中で、水色の方は海の中として色々な生き物を折り紙などで制作したりイラストでも表現、海面には船が航海をしていたりと涼し気に出来上がった。黒の方はセロファンや模様のある折り紙などを使った花火を貼り、建物を下方にクレヨンで描き夏の夜空が美しく完成した。おかげで保育室の中は梅雨空とは関係なく、夏の清々しさでいっぱいである。（和田学童）

（学童保育所主任　小出　博美）